

## 2024年4月21日（日）第二礼拝「神様とダビデとの愛」Ⅱサムエル7章1～16節

多くの人々は、自分の夫や妻の話に耳を傾けず関心を示しません。話の聞き手に反応がない時、話し手は寂しくなり孤独を感じます。地獄というのはまさに関係の断絶のことを言います。愛は反応です。相手の言ったことに関心を持つことです。山彦のように主の愛に反応する、主の作品に感嘆する、これが天国です。今日の本文は神様の愛に反応したダビデの愛、また、ダビデの愛に反応する神様の愛の話です。

第一番目、神様に対するダビデの愛です。ダビデは杉材の家に住んでいましたが、神様の箱は天幕の中がありました。そこでダビデは神様が住まれる家を建てたいと考えました。それに対して預言者ナタンはダビデに「あなたの心にあることをみな行いなさい。」と助言しましたが、神様はナタンを呼び、それを撤回しました。神様はダビデの心をととても喜んでおられました。ダビデが家を建てるのではなく、神様ご自身が家を建てると言われたのです。

第二番目、神様の反応です。神様はダビデに全ての敵から守り安息を与えること、神様ご自身がダビデのために一つの家を造ること、そしてダビデの身から出る世継ぎの子を起こし、その王国を確立すると言われました。この一つの家とは神様によってとこしえまでも堅く立てられる永遠の家であり、ダビデの子孫として来られるメシアが建てるのです。ダビデの世継ぎの子ソロモン王は第一神殿を建てましたが、BC586年にバビロンによって崩壊しました。第二神殿はゼルバベルによって建てられ、その後ヘロデによって増築され、AD70年に崩壊しました。イエス様は第二神殿に向けて、「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう。（ヨハネ2：19）」と言われました。イエス様はご自分のからだの神殿のことを言われたのです。イエス様が死んで三日後によみがえった後、ペンテコステで聖霊様が弟子たちにくだりました。ダビデの子孫であるイエス様を通して私たちのからだは、聖霊様が住んでくださる神様の永遠の神殿となったのです。十字架を通してただ恵みにより御子を信じる信仰によって神の子となる特権、すなわち、父と子の関係が与えられました。それは、神様が私たちを永遠に神の子としてくださるという約束です。もし私たちが罪を犯すなら神様の愛のむちによって懲らしめられます。しかしサウルが神様に見捨てられたように、私たちは見捨てられることはありません。私たちは永遠の神の家となったからです。

第三番目、その神様の反応に対するダビデの反応です。ダビデは感動して「神、主よ」と呼びました。18.19節「神、主よ。私がいっただい何者であり、私の家が何であるからというので、あなたはここまで私を導いてくださったのですか。神、主よ。この私はあなたの御目には取るに足りない者でした…」神様は、羊飼いをしていたダビデを選び、サウルの迫害から守り、王に即位させ、平安を与えてくださいました。神様は取るに足りない者、見下されている者を選んで素晴らしい神の家を永遠に建ててくださるお方です。「あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はありません。」とダビデがほめたたえたように、私たちがまた感嘆し神様を賛美する時、神様はととても喜ばれるのです。アーメン！